



THE OSAKA CENTENNIAL

C/O OSAKA YMCA
 1-5-6 TOSABORI,NISHIKU,
 OSAKA,JAPAN

2006年11月 No.294
 Chartered July 20,1982

主 題 Y ' s THEME (2 0 0 6 ~ 2 0 0 7)	
センテニアルクラブ会長:	『たのしくなければ、センテニアルじゃない!!』
国際会長	: 『愛をもって 積極参加』
アジア会長	: 『参画、そして感動を!』
西日本区理事	: 『一人はみんなのために、みんなは一人のために』
中西部部長	: 『いざ立て! 熱き思いをいだいて』

クラブ役員	Officers
会長	: 坂本 哲朗
副会長	: 永島 寧
書記	: 石津 雅人
会計	: 藤原 正巳
ネット会長	: 坂本 千春
Y連絡職員	: 鍛冶田 千文

Biblical Message of Nov.

どんなことでも、思い煩うのはやめなさい。何事に
 つけ、感謝を込めて祈りと願いをささげ、求めている
 ものを神に打ち明けなさい。

(フィリピの信徒への手紙 4章6節)

November Club Meeting 『 PR 』

11 月 第 1 例 会

日時: 2006年11月15日(水) 18:30 ~ 20:30
 場所: リーガランドホテル 3 階・葵の間

- 司 会 中村 茂高君
1. 開会点鐘 坂本 哲朗会長
 2. ワイズソング 一 同
 3. ゲスト紹介 坂本 哲朗会長
 4. 今月のテーマ PR (広報)
 5. 聖句朗読 松浦 孝次君
 6. 日々の糧・晩餐 一 同
 7. スピーチ「南アフリカ共和国を訪ねて
 - YMCA 同盟世界大会に参加して
 高橋 京子さん
 (大阪YMCA国際文化センター所長)
 8. 提案「クラブ予算と活動」谷川 寛君
 9. オークション
 10. お誕生祝い・ニコニコ献金
 11. 閉会点鐘 坂本 哲朗会長

11月 第 2 例 会

日時: 2006年11月22日(水) 18:45 ~ 20:30
 場所: 大阪YMCA土佐堀館 2 階

- * 11 月例会当番
 (松浦、中村茂の両メン)
- * 11 月お誕生日 畠中ネット 2 日、松浦ネット 22 日

「楽しくなければ、ワイズじゃない」

鍛冶田千文

「もういや。死にたい」「生きていてもいいことは無い」
 時々生徒が吐く言葉。涙を流しながら「自分なんて生きて
 いる価値がない」「ずっと一人ぼっちだ」と。

このような生徒の前で何かできるでしょうか。「生きて
 いたらいいことあるよ」「あなたが死ぬと悲しむ人がいる
 よ」そんな励ましもむなしく感じるのもこんな時です。ま
 だ 15、6 年しか生きていないのに打ちひしがれている生徒
 を見ると、無力感に襲われます。

生徒の 3 倍近く生きている中で、死を考える日や寂寥
 感にさいなまれた日もありました。充実感に満たされてい
 る時も、このまま一気に年をとって死の当日を迎えたい、
 と思うこともあります。でも生かされて生きている自分を
 知っているから、自分も他者も肯定できるのかもしれない
 せん。

「お祈りしていい?」と生徒に尋ね指を組みます。生
 徒も手を組み、目を閉じます。祈るしかできない - そんな
 時は本当に祈るしかないのです。そしてこうして祈るこ
 とを赦されていることに心から感謝しています。生徒たちを
 はじめ、誰もが神様から愛されていることに気がついてほ
 しいとYMCAの折々の場で感じ、YMCAの活動を通し
 てそのことを伝えたいと思っています。

ブリテンは、皆様の記事、写真のご提供により作られて
 います。「聖句」についても、クリスチャンに限らず、日ご
 ろから意識を持ち、日常生活で心に感じたことを書いてい
 ただければと願います。

【 クラブ統計 Statistics 】

2006年10月	種 別	第1例会	第2例会	BF ポイント	ニコニコ献金・オークション
在籍会員 16 名	メ ン	7 名	8 名	10 月: 切手 0g.	10 月: 26,905 円
例会出席 9 名	メネット	3 名	0 名	現金 0 円	(' 0 6 年 7 月からの累計):
うちキーキャップ	ビジター	1 名	0 名	(06 年 7 月 ~ 07 年 10 月	累計: 95,715 円
2 名	ゲ ス ト	3 名	0 名	の 累計) 切 手 770g	オークション累計 28,200 円
出席率 56.2%	合 計	14 名	8 名	現 金 0 円	

今月の聖句に寄せて

偉大な伝道者パウロが、マケドニアでの最初の伝道地であるフィリピの人たちに送ったメッセージです。敵対する勢力に対抗しながら、イエスを主として仰ぐことを人々に強く説きました。4節の「主において常に喜びなさい」に続く言葉です。

卑近な日常の生活から、これからの人生まで、思ひ煩うことがあまりに多い毎日です。いつも感謝の心をもって祈り、自分の全てを神の御手に委ねること 私はそうありたいと願いつつも、そのことがなかなか出来ていないことを、いま実感しています。

聖句選・コメント：松浦孝次

10月ハイキング例会

10月21日、晴天のなか、以下のコースでハイキング例会を行いました。

<コース> 宝ヶ池(10:30) 円通寺(11:10)30分ほど拝観・休憩 深泥ヶ池(12:00) ゆば泉(12:30) 食後宝ヶ池周辺散策 宝ヶ池(14:30)解散。

<参加者> 山田、福永、隅田、隅田メネット、坂本、坂本メネット、坂本メネット、中村メネット、畠中、大村、石津、古賀、藤原、黒田、各メン(計14名)

宝ヶ池ウォーキング 快晴 快汗 快食

10月21日10時過ぎ、地下鉄国際会館駅を出ると、まぶしいばかりの陽光と青空と、そしてあふれんばかりの緑の木々。集まったセンテニアルのメンバーは老若男女(若は少ないが…)14名。まず駅の上の芝生の広場で準備体操をする。メンバーの年と体力を考え軽くかつ念入りにしたあと、藤原氏より今日のコースの説明を受け、まずは宝ヶ池1周をめざしてスタート。ジョギングやウォークを楽しむ多くの人にまじってほぼ1周してから円通寺に向かう。円通寺は比叡山を借景とした庭園で有名な寺で、全員が庭を望む部屋に座ったところで、住職の重々しくも切々たる説明が始まった。



美味しい湯葉料理の後で！

比叡山を眺めつつ、文化財や史跡が開発の波の中で現状を維持することの困難さを教えられた。その後「幽霊」と「ジュンサイ」で有名な深泥が池を回り再び宝ヶ池にもどる。暑さと空腹で皆がブツブツ文句を言い出したころ、昼食場所の「湯葉仙」に着く。ソバ屋はたくさん知っているが湯葉屋は始めての人が多く、皆興味津々であった。空腹をガマンしてまずは例会行事…そしてやっと昼食となった。ゲストに懐かしい黒田さんと、新しい大村さんを迎えた楽しい食事となった。次々出てくる湯葉料理もおいしかったが、暑い中を歩いたあとのビールも冷酒も格別であった。ゆっくりと食事を終え、適度な疲労感と満足感を感じつつ、15時ごろ解散となった。

(畠中 彬)

(追記 その後私は陽気に誘われ、鴨川べりを京都駅まで歩きました。京都駅着17時15分でした。)

土佐堀カーニバル

11月3日、土佐堀YMCAで、恒例の「土佐堀カーニバル」を開催。当クラブもバザーを運営し、ぬいぐるみや衣服類、雑貨など21,110円を売り上げました。今年は例年に比べ2~300名多い1,100名の来場者に、会場は熱気にあふれ返りました。

午前11時、吹奏楽の「戦艦ヤマト」のパンチの効いた曲でカーニバルは始まり、家族連れなど続々と入場。1階ロビーではバザーやミニカーレースなどのゲーム、果物や海産物の販売、子ども服などリサイクル服の展示販売を行い、ステージでも、吹奏楽や手話歌、尺八・琴、ヒップホップダンスなど多彩なパフォーマンスが繰り広げられました。



バザーに協力しました

10階では、うどん、お好み焼き、寿司、焼きそば、磯辺焼き、フランクフルトなどが屋台で販売され、瞬間に完売の屋台が続出。地下2階では、キッズランドが催され、レクリエーションやアニメの上映に、子どもの元気な声が響き渡りました。

今回取り入れたリユースカップ・食器やゴミ分別による環境にやさしい取り組みも好評。カーニバル全体の収益28万円は、土佐堀クリスマス献金として、地域奉仕活動や国際支援活動に役立てられます。

終了後、関係者の打ち上げでは、運営委員長の松浦メンと実行委員長の石津メンがマイクを持ち、リーダーやスタッフの労をねぎらいました。特に、松浦メンは今回の成功に感極まったのか、飲んだ「3本のビール」のせいか、屈託のない笑みを終始浮かべ、一同の笑いと涙を誘いました。大役、ご苦労さまでした。(中村茂高)

10月第2例会

【Report of the October Club Meeting】

(10月25日(水)18:45~20:30 大阪YMCA)
出席:石津、鍛治田、坂本、永島、中村、藤原、三浦、
山田君 計8名

1. 11月第一例会のスケジュール確認。1面参照

- ・オークションを実施。
- ・ニコニコ献金で5,000円以上の寄付者をブリテンに名前のみ掲載。

2. 今後の予定、連絡事項

12月=クリスマス例会は、会費4,000円でちょっとリッチに。大村肇メン入会式。プレゼント交換(畠中メン)あり。

1月=新酒会は、藤原メンによる西宮・白鹿を予定。日程は1/13(土)がだめなら2/17(土)で。

2月=映画「マザーテレサ」か、アメリカンキャンプの映写会 2月はTime of Fast(断食)のため食事なし)新酒会が2月になるなら、映写会は1月に変更。

3月=谷川メネットによる音楽会

4月=卓話、新会員大村メンが趣味でしている陶芸の話など。

来春、親睦交流のための1泊合宿を金・土で予定。

3. その他の行事予定

1月6日(土)中西部新年会

11時~15時、土佐堀YMCA

2月11日(祝)なかのしま10周年記念会

11時30分~、ホテルグランピア大阪

(中村茂高)

YMCAニュース

秋は行事が満載です。そこで感じるそれぞれの思いをふきだしに入れたら、大阪の空いっぱい以上になるでしょうか。一人ひとりが満たされた思いになれるようにと願います。

早天祈祷会

11月17日(金)7時30分~8時30分

証し 山地弘伸氏(しろがね幼稚園スタッフ)

音楽と交わり(祈祷週プログラム)

11月17日(金)18時30分~20時30分

1部 音楽礼拝 2部 軽食と交わり (無料)

11月の第2週は世界YM/YWが同じテーマで祈る週です。今年は大阪教会の聖歌隊の皆さんと一緒に祈り、歌う時間をもちましょう。

チャリティーラン

11月23日(木・祝)万博公園

講演会

11月25日(土)14時~16時

日々いきいきと - 学校と子ども -

講師:清水真砂子氏(児童文学翻訳家:ゲド戦記翻訳者)

Club Activities

October, 2006

On October 21, the club's October meeting was held at the Japanese restaurant "YUBASEN" in Kyoto with a total of 14 Y's men, Y's menettes, and a guest in attendance.

We were very happy to see Mr. YOSHIYUKI KURODA, our retired member and Mr. HAJIME OMURA, candidate for our club member among the attendants.

Before the lunch at the restaurant, we took a walk around the Takaragaike Park and Entsuuji Temple near the restaurant.

Walking through the hiking course with fine scenery and historical spot was the most exciting moment and we all enjoyed good outdoor exercise throughout the day.

At the meeting, President TETSURO SAKAMOTO made an monthly report on our club activities as usual.

A total of Yen 26,905 was collected for our club fund, including donation from Mr. YOSHIYUKI KURODA and MR. MASATOSHI HIRATA, our retired member as well.

フレンドシップキャンプの感想

今夏、8月22日から25日まで、沖縄・渡嘉敷島で開催した「フレンドシップキャンプ」の参加児の声をいくつか紹介します。

大阪のY君(14歳)

僕たちはこのキャンプに招待されるのは初めてで、先輩たちのアドバイスもなくて、とても心配でした。「友達できるかな?」「楽しいかな?」と心配が多かったけど、楽しく友達も多くできた事が一番うれしい事でした。

初日は空港に知らない人だらけで、正直「早く終わりたいな」と思いましたが、夕食後のオリエンテーションで皆と仲良くなり、その後は充実したキャンプを送れました。2日目はキャンプ場に移って沖縄の海を見た時は、大阪の海とは天と地の差だと思いました。海の中では美しい熱帯魚がゆったりと泳いでいて、透明度の高いマリブルーの海の素晴らしさを楽しみました。ちなみにテントで過ごした夜はあまり快適ではなかったです。4日目ついに別れの日がきました。別れの時は出会いの時には全く思わなかった悲しさがこみあげてきました。次の時にも参加できたらいいなと思っています。



大阪のMさん(13歳)

私は初めてこのキャンプに参加しました。沖縄に行くのは初めてで、飛行機に乗る時ふるえていました。すごく緊張したけど、意外とこわくありませんでした。渡嘉敷島も自然が多くて、ゴキブリもたくさんいたけど楽しかったです。ハイビスカスもふつうに道ばたに咲いているし、「ああ、ここは本当に沖縄なんだなあ」と思いました。1回はここに住みたいと思いました。こんなステキな所に招待して下さいありがとうございます。

奈良のR君(15歳)

私にとってフレンドシップキャンプは勇気をもらうキャンプでした。今年も勇気をもらうために行きました。大阪に着くと新しいグループリーダーと会い、その時「あーまたフレンドシップキャンプが始まるのだなー」と実感しました。アメリカンスクールの生徒たちと合流して高学年がいないので、小学生をまとめなくては行けないと思い、少し気合を入れました。それから、海で舟に乗ったり、泳いだり、キャンプファイヤーなど本当にたくさんの思い出ができました。一番思い出に残っているのは、キャンドルサービスです。また昔の友達に会えたことが一番うれしかったです。私はおそらく今回のキャンプで卒業することになるとは思いますが、また私より小さい子どもたちがキャンプに参加するので、次はその子どもたちが私と同じようにいっぱい思い出を作してほしいと思います。本当に楽しかったです。ありがとうございました。

奈良のRさん(13歳)

私はフレンドシップキャンプが大好きです。2年に1度しかない交流の機会だからその時間をとても大切に過ごしました。大阪の子にしゃべりかけると返事がかえってきてとてもうれしかったです。私は大阪の子もおもしろい子がいると思い、その子と1日目に1番に友達になりました。沖縄の友達と会えて、交流時間の終わるまで話をし、その時間はめっちゃ、楽しかったです。最後の日はやっぱりみんな泣いて泣いて、泣きまくりました。最後になると、ようやくわかる[友情]、それまで絶対に最後の日にならないとわからない。最後にみんなと仲良くなれるからフレンドシップキャンプが大好きです。今回のキャンプ、めっちゃ楽しかったです。またあれば参加したいです。

沖縄のSさん(10歳)

最後の日の自由行動で、わたしたちのグループだけアイスクリームを食べました。おいしかったです。わたしたちのリーダーからプレゼントをもらいました。そしてモノレールに乗ろうとしていたらおそくなって、タクシーに乗りました。みんな着いたら空港にいきました。わたしは大阪の子が行ってしまうから泣いてしまいました。

沖縄のRさん(13歳)

今日は海に行って友だちとカヌーにのりました。最初は楽しかったけど、後からうでが痛かった。カヌーをこぐのになんにも体力をつかうとは思ってもみませんでした。カッターでは疲れたけど、船の底から海の中が見えてとてもきれいでした。そのあとグループのイーハンという子を砂風呂にして砂をかけました。とても楽しかったです。そのあと砂からあがるようにしたら、砂が重すぎて起きられなかったそうです。その後テントをたてました。簡単だと思ったら1人ではやっぱり無理でした。テントは2つ立ててからカレーを食べました。ちょっとうすかったです。



ニコニコメッセージ



Messages from the Club Members

ゲストからのメッセージ

秋の京洛のハイキングの昼食会にお招き頂き大変嬉しく感じました。いつも変わらぬご友情に感謝しております。

(黒田 厳之)

会員からのメッセージ

秋晴れの中洛北を散策し美味しい食事を頂き楽しい例会でした。また、ニコニコメッセージが少ないのも楽しみです!!

(石津 雅人)

お天気、ハイキングコース、景色、そして黒田さんをお交えた美味しいお食事と最高に楽しい例会でした。お世話頂いた藤原さんに感謝。有難うございました。(隅田 保、恵子)

久しぶりに洛北を散策した楽しいハイキング例会を持つことが出来、御同慶も至り。お世話頂いた方本当に有難うございます。黒田様、平田様の貴い御支援に感謝いたします。MAHALO!

(福永 嘉彦)

京都洛北の地で開催されたハイキング例会は、皆様の健脚と快晴に恵まれ、楽しく終えることができました。お元気な黒田さんに久しぶりにお会いできたこと、入会予定の大村肇さんや土佐堀クラブの坂本メネットが参加されたことなど、本当に心嬉しいひとときでした。また、黒田さんやクラブOBの平田雅利さんから過分のニコニコ献金を頂いたことも嬉しい限りでした。改めてお礼申し上げます。(藤原 正巳)



5,000円以上の特別献金をされた方

(敬称略)

黒田厳之さん、平田雅利さんの元メンバー

編集後記

最近、40年前四肢欠損の奇形児を生んだ催眠薬「サリドマイド」が、炎症性疾患やがん治療に有効という話がありましたが、時期を同じくして、私は10月29日、かつてキャンプでかかわっていた「サリドマイド被害児の守る会」のメンバー40人と京都で会う機会を得ました。当時小学生だった被害児も40歳前後の子を持つ親の世代となり、たくましく成長していました。一人ひとりの語る言葉の中に、キャンプが自分たちの人生の大きな「心の拠り所」だったという話や、彼ら自身YMCAなどでキャンプリーダーとして活動していたことを聞き、深く胸を打たれました。たった4日間しかないフレンドシップキャンプでしたが、十分子どもたちの人生の指針となり得ることを改めて感じさせられました。

中村茂高

大阪センテニアルクラブホームページ

http://www16.ocn.ne.jp/osaka_hp/ys.html